

◇深澤 均 君

○議長（高橋 猛君） 初めに、13番、深澤 均君の一般質問を許可いたします。深澤 均君、登壇願います。

（13番 深澤 均君 登壇）

○13番（深澤 均君） 通告に従って質問をさせていただきます。

第1点目は、交差点の改良についてであります。

中野地区町道中野寺田・白山線ですが、選果場方向から進行してくると県道角六線にかなり鋭角に交差しています。この道路は、町内を南北に結ぶ県道を補完する重要路線でもあり、また、大仙方面から美郷役場庁舎方向に向かう幹線でもあります。しかし、交差点付近六郷方向へは緩くカーブしているため非常に見通しが悪く、通勤時など渋滞になることもしばしばで、勢い切れ目なく走ってくる車列に割り込むように合流している状況にあります。冬季は除雪された雪で一段と見通しが悪くなり危険であります。これまで、このような場合、道路改良時に合わせて交差点の改良を行ってきたようですが、現在、県道あるいは町道の改良計画があるのか。また、計画がない場合、交差点だけの早期改良が必要と思うが、町長の見解を伺います。よろしく願いをいたします。

○議長（高橋 猛君） 答弁を求めます。町長、登壇願います。

（町長 松田知己君 登壇）

○町長（松田知己君） ただいまの、深澤議員のご質問にお答えいたします。

交差点の改良についてですが、県道角館六郷線と町道中野寺田・白山線が交差する中野地区の交差点改良について県に問い合わせたところ、主要地方道角館六郷線の中野地区の区間は幅員が7メートル、歩道設置済区間であり、今後の改良計画はないとのことでした。また、町道中野寺田・白山線については、幅員6メートルの二級幹線道路ですが、合併前に改良済路線としております。そのため、町総合計画後期基本計画においても維持補修対象路線として位置づけているところであり、改良計画はありません。

一般的に、交差点改良の場合、基本的に直角交差とすることを条件として県公安委員会と協議することとなりますが、当該箇所については、県道側において、議員ご指摘のとおり、緩いカーブが連続しているため、見通し良好な地点などについて十分な検討が必要なこと、また、その地点の交差点改良が道路利用者にとって真に利用しやすい改良となるのかどうかの見きわめが必要なこと、さらに、必要な用地確保の問題など多くの課題があるため、直ちにその方針を決められ

ない問題だろうと存じます。

現状において、道路構造上の問題はないわけですから、事故については一義的に運転者の注意にかかってくるわけですが、幸い、これまで警察に届けられた大きな交通事故は10年以上ないと美郷交番より伺っております。

引き続きそうした状況を維持できるよう、町としてはまず町道側に新たに看板を設置して注意を一層喚起するとともに、県道側に設置しているカーブミラーの取り付け状況を再確認し、さらに視認性向上を図るためカーブミラーを増設してまいりたいと存じますので、ご理解いただきますようお願いいたします。

○議長（高橋 猛君） 再質問ありますか。深澤 均君。

○13番（深澤 均君） 今、町長の答弁の中にもありましたように、現実、あその県道側の路線を見ても、町長おっしゃるように、緩いカーブがどこまでも続くと。直角に交差することが非常にやはり困難であるということは、私も現場を見てそう感じたわけですが、今、町長の答弁にありますように、大きな事故も幸い起きていないと、それは付近の住民も申されておりました。現場を見ても、「止まれ」という表示も随分前に表示されているような状況でありますので、今後もより一層安全な交差点に向けて、引き続き検討をしていただければなと思っております。答弁は要りません。

次の質問に入らせていただきます。

二つ目の質問として、町と次世代との交流について質問をさせていただきます。

少子化が社会問題として認知されてからかなりの月日がたちましたが、依然として実態は改善されないままで、田舎ほどその状況は深刻で「超少子化」と表現している自治体も出てきているようであります。

報道によると、秋田県は対県人口の子供の割合が全国ワーストワン、また、結婚適齢期の婚姻率も同様の数値ということで、非常に残念な結果であります。今年度、佐竹知事は「少子化対策はまずは結婚から」ということで、結婚に結びつく事業を予算化し、その効果に期待するところでもあります。

そんな中、そのカギを握る20代、30代を中心とした次世代と町との交流が不足しているのではないかと感じているところであります。この状態は美郷町だけではないにしても、今の少子化対策や定住促進に当たって、彼らと交流することで次世代の考えや価値観を肌で感じ、今後の町づくりに生かすことが活力ある美郷の起点と考えます。とは言っても、労働環境の多様化や子育て

中などでなかなか時間の取れない世代でもあります。現状のままでは実現がかなり困難であることが予想される場所でもあります。

そこで、その打開策の一つとして、この世代がかかわる幼保の保護者会、小中学校のPTA開催を機会とした交流ができたらと思っているところでもあります。学校は教育の場であることは言うまでもありませんが、若い世代が多く集まる場所に積極的に出向き、町長と町づくりを語り合う交流の場を検討、実現できないか、町長の見解を伺います。

また、本町の基幹産業である農業者の次世代にも同様の感じを持っているところでもあります。2広域JAや集荷業者などの垣根を越えた交流の場が必要であり、町としても積極的な対応、そして交流を望むところではありますが、あわせて見解をお伺いいたします。

○議長（高橋 猛君） 答弁を求めます。町長、登壇願います。

（町長 松田知己君 登壇）

○町長（松田知己君） ただいまの質問にお答えいたします。

町と次世代との交流についてですが、幼稚園、保育園の保護者が集う機会は年1回開催される保護者会総会のほか、保育参観が年2回ほどあります。また、小中学校のPTAについては年1回のPTA総会のほか、授業参観やみんなの登校日など、年4回から5回ほどあります。ともに、忙しい保護者のことを考え、長い時間設定ではなく短い時間設定の中に多くの取り組みを盛り込んで開催している状況のようですので、基本的に、さらに新たな取り組み、町との意見交換の場を加えることは、保護者に対して時間的なご負担をお願いすることになります。しかし、議員ご指摘の趣旨も十分に理解できることですので、園や学校、そして保護者会役員やPTA役員に対し、少子化対策も含めた意見交換の場、意見交換の時間を追加できるかどうか、また、そうした時間を確保できた場合、参加者の見通しを持てるかどうか打診してみたいと存じます。

また、若手農業者の交流につきましては、その意義をかんがみ、これまで生産者団体を中心に青年層を対象とした活動などを展開してきておりますが、今年度は、町や農業委員会、農業協同組合や土地改良区など関係機関の代表者で構成している美郷町地域担い手育成総合支援協議会でもその必要性を踏まえ、重点活動として若い担い手の掘り起こしとともに、そうした方々のご意見を伺う場を設けることとしております。町としては、この担い手協議会事業とタイアップして、同じ町に住み、同じ農業に取り組んでいる若い仲間がともに地域への熱い思いを語り合うとともに、私どもとも意見交換ができる交流の場を設定していくよう努めてまいりたいと存じます。

す。

なお、町民との意見交換の場については、これまで各行政区の手挙げ方式で「やまびこ座談会」を開催していましたが、今年度は、あわせて、町から特定行政区にお声がけをしての座談会も開催するなど、意見交換の場の充実を図っているところであります。

以上です。

○議長（高橋 猛君） 再質問ありますか。（「はい」の声あり）深澤 均君。

○13番（深澤 均君） 町長から答弁の中で前向きな返答をいただきましたので、再質問という意味ではございませんけれども、今の私の質問に加えてちょっとお話ししたいことは、農業者の若い方、20代、30代の方はおやじさんも若い年代であります。とりわけ、いろんな集まりとか何かあると、おやじさんの方が出かけていってしまうというような感じだと、現場を見てそう思っているところですが、そういう二世帯で頑張っている方々の若い方々をどうやって町との交流の場に引っ張り出すかというか、ちょっと言葉にあれですけれども、出ていただくかという対策をやはりもっと、今の町長の言葉にありましたように、積極的にやってもらえなと思っております。

以上、答弁は要りませんので、これで質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（高橋 猛君） これで、13番、深澤 均君の一般質問を終わります。